

平成 22 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070703451		
法人名	株式会社 エルゼ		
事業所名	愛好の里グループホーム青春・明苑		
所在地	北九州市八幡西区馬場山東1-26-20		
自己評価作成日	平成22年10月30日	評価結果確定日	平成22年12月9日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kai_gosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	平成22年11月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当苑リビング南側ベランダ下には、大きな池があり季節の水鳥が戯れる姿、水面に映るきらきらした日差しが癒しの空間となっています。また南側前面ガラス張り、その他の壁は檜張りの浴室からも、同じ光景が眺められゆっくり寛げる入浴タイムは利用者の楽しみの一つとなっています。このような恵まれた環境の中、入居者は歩行意欲のなかった方も手引き歩行まで出来るようになったりと、利用者も職員とともに喜び笑える日々を送れるように支援しています。閑静な住宅街に位置し地域の町内会でも組長としてのお役を頂いた事をきっかけに、現在も町内行事には積極的に参加させて頂き、その中でも町内の方々から気軽に声を掛けて頂けるようになりました。また年に一度は苑主催でデッキにてBBQ大会を行い家族との食事を楽しんで頂き、他入居者やご家族同士の交流の場となっています。少しずつ地域、ご家族共に信頼関係を構築できつつあります。介護施設ではなく、地域の中の一般住居の中で生活支援というグループホーム本来の意義を常に心がけ、型に嵌らない介護を通して利用者ひとりひとりの暮らしぶりを応援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念の「愛情を持って明るく、楽しく共に笑い合える毎日を通します」を事務所に掲示し、全職員が入居者を大切な家族として支援するケアを実践しつつある。入居者の楽しみである食事は、全員が食卓に付き、「いただきます」、「ごちそうさま」を唱和している。1時間半のゆったりとした昼食は、自力摂取を促し入居者はそれぞれのペースで食事をしている。毎月の介護相談員の来所で入居者の意見や要望を伺う機会を継続したり、個別の日々の暮らしぶりや主治医の訪問診療状況等を家族に知らせるために、担当職員の記載による毎月の「たより」を家族に配付している。運営推進会議は入居者が寛いでいる居間で開催され、民生委員から外出傾向のある入居者について町内会に協力をお願いしてはとの意見があるなど、今後は地域と理解や協力の促進で地域密着型サービスの定着が期待できる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット/
事業所名 **愛好の里 グループホーム青春・明苑**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の勤務交代、ミーティング時に理念を唱和し確認している。又日々意見交換を行いながら理念を実践できるように努めている。	地域密着型サービスについて理解し、理念の「愛情を持って明るく、楽しく共に笑い合える毎日をお願いします」を事務所に掲示している。入居者を大切な家族として、理念に沿ったケアに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の方には町内行事の招待状を持ってきて頂き町内の一員として町内行事に参加できる機会を得、入居者、職員ともに積極的に参加している。又近くの公園への散歩や回覧板を入居者が届けに行ったりする事で近所の方との接触の機会も増やせるようにしている。	町内行事の盆踊りやソーメン流しに参加したり、近隣の方々とあいさつを交わしている。昨年は新型インフルエンザの流行で中止されたが、今年のクリスマスは以前から交流のある幼稚園児の来訪を打診する予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事に参加した際に入居者の方々と触れ合われる中で、実際を見ていただいている状況ではあるが、地域の人々に向けた方で、何かの開催ということは行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回、民生委員や包括センターの方、入居者ご家族をメンバーとし、苑の状況や問題点を上げ、話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	利用料等支払い時に家族全員に運営推進会議を案内し、入居者が寛いでいる居間で開催されている。会議では、民生委員から外出傾向のある入居者について町内会に協力をお願いしてはとの意見が出ている	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	社会福祉協議会の方に月一度来て頂いている。入居者の声を拾い上げて頂き、情報交換を行なう中でヒントを頂きながらサービスの向上につなげられるよう取り組んでいる。	介護相談に関するポスターを掲示し、管理者は愛煙家の入居者の喫煙について、相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在、帰宅願望の要求が激しい方がいる。玄関へ行かれ外へ出ようとされるが、玄関の施錠はせず、ケアに取り組んでいる。身体的拘束厳禁は、職員間で浸透している。	身体拘束禁止となる具体的な行為について全職員に周知している。町内会で外出傾向のある入居者の顔写真の回覧や協力をお願いしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期ミーティングで実態チェックを行っているが、苑内研修を行いながら、虐待なしの徹底に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社外研修会に参加した際には、学んだ事をスタッフ間で共有し、また苑内でも勉強会を開催し、学ぶ機会を持つよう心掛けている。現在この制度を利用されている方もいる。	日常生活自立支援事業を活用している入居者もあり、入居時に権利擁護に関する制度について説明する資料を整備している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時とも保証金返金も含めて十分に説明を行なっている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段より利用者との会話を行なう中で、聴き出すよう心掛けている。又、社会福祉協議会の方に月に一度来て頂き利用者の声を拾い上げて頂いている。	担当職員が個別に日頃の暮らしぶりや訪問診療状況を記載した毎月のたよりを出したり、家族来所の折や恒例のバーベキュー大会を家族に案内し、意見を伺う機会や場を提供しているが、入居者家族が知り合う良い機会になっている。紙おむつ使用量が少ないことを感謝した家族もいる。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期ミーティング時に意見、提案を行なえる機会を設け、改善に向け必ず何らかのアクションを起こしている。	運営法人の担当者が定期的にミーティングに参加し、率直な意見を話せる関係づくりをしている。2人体制で入浴を支援したいとの意見で、10時から16時まで勤務できる職員を雇用している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	前月までに作成された次月の勤務表(勤務ローテ表)には、必ず目を通し無理のないシフトになっているかチェックしている。又毎月のミーティング等で問題を抱えている職員からの意見も積極的に聞くようしている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	能力以外の理由で対象者から排除することはない。社会参加、スキルアップの機会を与え、自己実現の権利を保障している。	働きやすい職場として、ロコミ等で職員を採用している。無資格者の雇用もあり、管理者が指導している。管理者は職員の人柄等を考慮し、担当職員を決めている。毎月半ば2日を学習会としている。	年間研修計画に全職員で話し合った学習内容を盛り込むことで、職員のさらなる自己実現を期待します。
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	日常の業務及び定期ミーティングの中で、教育を行なっている。	高齢者虐待防止マニュアルを整備し、研修を実施している。管理者は入居者の意見を充分伺ったり、入居者への声かけや対応について随時話し合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画は設けていないが、外部の研修には、シフトの編成等で職員の代表が参加し伝達している。新人の職員等には、管理者が付き指導を行い、又他の職員との相談等にも管理者が対応している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	現在、同業者との交流の機会には恵まれていないが、介護事業を手掛けている会社との付き合いの中で同業者の情報等を得て医いる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始時には、必ず本人及び家族と面談し、相談等に応じている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始時には、必ず本人及び家族と面談し、相談等に応じている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族のニーズに合わせ、他のサービスが適切と思われる場合には、紹介し本人や家族の意向を確認した上で対応している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人との対話を通して具体的な生活歴・個人史等を理解し、人生の先輩として礼節を持って支え合う関係を築いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に理解を求めながら、良好な関係作りに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外部との面会時間や外出、外泊にも制限を設けず、本人の大切な関係を継続できるよう配慮している。	入居者の配偶者の通夜や告別式に同行し、家族との関係づくりを支援している。墓参りを希望した入居者がいたが、家族の意向で中止している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングを喜びや楽しみを共感できる場とし、同じ目線で声掛けを行い、一人一人が孤立することのないよう関わり合い、支え合いをプロデュースしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	対象事例なし。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話の中から、具体的な暮らし方の希望を聞きだし本人のベースにあった生活を送れるように心掛けている。	詳細に心身の状況をアセスメントし、日々の関わりから入居者の意向の把握に努めているが、生活歴、職歴、趣味等の記録がない。	入居者の生活歴、職歴、趣味等の把握がさらなる入居者の意向の把握に繋がることを期待します。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始の面談や普段の会話の中から生活歴を探り、馴染みの暮らし方を尊重しながら親身のケアができるよう心掛けている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人と向かい合い、本人にわかりやすい言葉や態度でコミュニケーションを図り、要望をきちんと受け止めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	話し合うべき事項が発生した際には、ご家族へ相談を行い、又全入居者に関しても月に一度の会議の中で入居者の状況の変化や今後の援助について話した上で計画の作成を行なっている。	入居者や家族の意向を記載した介護計画書を作成し、モニタリング及び評価後、3ヶ月毎に介護計画を見直している。作成した介護計画は家族に説明し、了承を得ている。	スモールステップの短期目標を設定することで、サービス内容や実施状況がモニタリングしやすくなると思われます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の暮らしの様子で普段と違うご本人の言葉や行動等を記録に残し、ケアプランの見直しに活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況や要望に応じて、通院、送迎等必要な支援には、柔軟に対応している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内行事の盆踊りや神社のお祭りなどに参加し、地域との交流を楽しむことができる様に支援している。町内の回覧板も入居者の方が(スタッフ見守り)届けてくれ、隣人との交流も深められている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の定期的な訪問診療を受けている。ご本人やご家族の不安等適宜かかりつけ医に伝え、円滑な医療処置に配慮、努力している。	定期的な訪問診療があり、主治医の指示・方針を毎月家族に報告している。専門医療機関受診の際は主治医からの紹介状を持参し、家族が受診に同行している。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度看護師が勤務しており、その週の体調の変化などを伝え、又相談にのってもらい、薬変更や体調不良の入居者は、看護師とかかりつけ医へ連絡を蜜にし、対応を行なっている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先は、かかりつけ医の紹介によることが殆どである。家族の意向を尊重してかかりつけ医との橋渡しを行なっている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、訪問看護サービスとの連携体制をとおり、安心した終末期を迎えられるよう、ご家族にも承諾を得、対応している。又、高齢者のターミナルケアの講習にも出かけ積極的に取り組んでいる。	訪問看護との連携体制もあり、入居者や家族の要望があれば、看取りを支援する予定である。重度化や終末期について意向確認書を整備し、家族と取り交わしている。	確認内容を全職員に周知し、かかりつけ医や家族等と十分な話し合い後に、看取りを支援されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	週一回の看護師勤務時に、スタッフと共に 対応訓練を受けている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防関係者を交えた避難訓練を行い、災害時に対応できるよう備えている。	行政が指定した避難場所を熟知し、日中及び夜間を想定した避難訓練を実施している。居室入口に搬送、誘導、自立の目印を貼付し、緊急時に備えている。訪問調査当日にスプリンクラー設置工事が行われていた。	運営推進会議に参加している民生員を通じて、近隣や町内会へ避難訓練や災害時の協力をお願いされてはいかがでしょうか。その折にホームとして地域に協力できることについて意見や要望を伺っていたきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人に関する記録や書類などは、鍵のかかる場所に保管し、個人情報の保護に関しては契約書に明記している。声掛は、〇〇さんと和やかな声で対応している。		
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	タバコを吸われる入居者は、防災付きライターは、職員が預かっているが、本人希望により要求があれば、その都度吸って頂くなど対応している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	明るく開放的なリビングが過ごしやすいせいか、殆どの入居者が一日の大半をリビングで過ごされている。敷地内に祭られている観音様をお参りされたり、近くの商業施設にご家族と外出される入居者もいる。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧をする方、ピアスをしている方、洋服に拘りのある方など、生活歴などを把握し支援している。定期的な散髪などにも配慮している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手作りを基本に献立を作成し、季節の食材を取り入れる調理をしたり、時には入居者の希望の献立を取り入れたり、入居者さん同士で介助をするなど、毎日和やかな食事風景です。	昼食時間を1時間半設け、入居者と同じテーブルに全職員がつき、見守りや食事介助をしながら食事をしている。布ナフキンや箸・スプーンを入居者がセッティングし、食前・食後の挨拶は習慣化している。職員が食器の位置を変えたり、スプーンに食材を載せ、自力摂取を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士に資格を有する職員が献立を立て、バランスや嚥下状態に配慮している。食材も細かくしたり食事量も確保できるよう工夫している。水分摂取は一日1500CCを目安に声掛を行い記録している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い本人の力に応じ、職員が仕上げを行なう。就寝前の口腔ケア後は、入れ歯は専用の洗浄剤につけおきする。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人の排泄パターンや便薬服用の状況を把握し細目なトイレ誘導やトイレの声掛オムツチェックなどの支援を行なっている。	夜間頻尿の入居者やストマーを装着している入居者もあり、また要望に沿ってリハビリパンツを布パンツに変えたりと、入居者に応じた対応を全職員で取り組んでいる。食後等、定期的にトイレに誘導している。トイレ前に設置されたタンスにはリハビリパンツや尿取りパットが準備され、タイムリーな交換を実施している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	生野菜などを一日の献立の中に入れてたり、手作りヨーグルトを毎日、おやつの時に食べ、水分摂取も1500CCを目安に、また軽い運動など個々に応じ、予防に取り組んでいる。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	浴室は、ガラス張りで眺めがいい為、入居者が温泉と呼ぶ程です。隔日毎にゆっくりと楽しく入浴してもらうよう工夫している。入浴嫌いの入居者さんは、職員が交代で声掛を行なうなど工夫している。	桧材が壁に使用され、四季折々の池を展望できる浴室は、3方から介助できる大きめ浴槽が設置されている。仲の良い入居者2人で入浴したり、状況に応じて職員2人で支援することもある。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活歴を活かした部屋作り心掛け、安心して休息や入眠ができる様、対応している。自室での就寝を寂しがる入居者には、ホーム中央量の間での就寝を促す。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人が使用される薬には、毎日日付けを記入し、服薬忘れの無い様、また発熱など緊急時にはかかりつけ医の指示により服薬を行なう。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	敷地内の花壇に花を植えたり、踊りの好きな方が入居者さんの前で披露したり、縫い物の得意な方に雑巾の縫い方を習ったりと一人ひとりの生活歴を活かして気分転換等の支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自発的に外出する利用者が少ない為、入居者と食材の買い物に出かけるようしている。近くの公園にあるお稲荷さんにお参りに行ったり、外食に行く機会を設けている。日曜には外出すようにしている。	外出を気分転換や五感を刺激する機会と捉え、近くの公園や食材購入のドライブをしている。入居者家族の通夜や告別式に同行したり、入居者の墓参りを家族に打診したこともある。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方は、所持して頂いているが、そうでない方や家族に希望があれば管理者が管理している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙について促しているが要望がない。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング内の対面キッチンの特性を活かし、調理音、料理臭を身近に体感してもらっている。南側窓のカーテンは開放し、快適な季節感を満喫できるようにしている。	駐車場や庭から玄関までスロープが設置され、庭にはバラが植えられていたり、観音様が祀られるなど、豊かな居住環境を造っている。玄関の壁の一部はガラス張りで、出入りが居間からも伺える。居間で1日過ごす入居者も多く、カーテンの開閉で採光や室温を調整している。車イスで対応可能な広いトイレは清潔で防臭に配慮している。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには、ソファ・テーブル・マッサージチェアを置き、また畳スペースを設け自由に利用できるようにしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドや畳等、入居者の生活習慣に合わせた部屋作りを行い、馴染みの物や位牌、家族の写真等を置き居心地の良い居室になっている。	各入居者の個性や習慣を理解し、居室の整備に配慮している。各居室前にウッドデッキがあり、見晴らしも良く採光も十分である。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	十分な採光、バリアフリー、手すり設置など気軽に一人でも動き易いようにしている。		